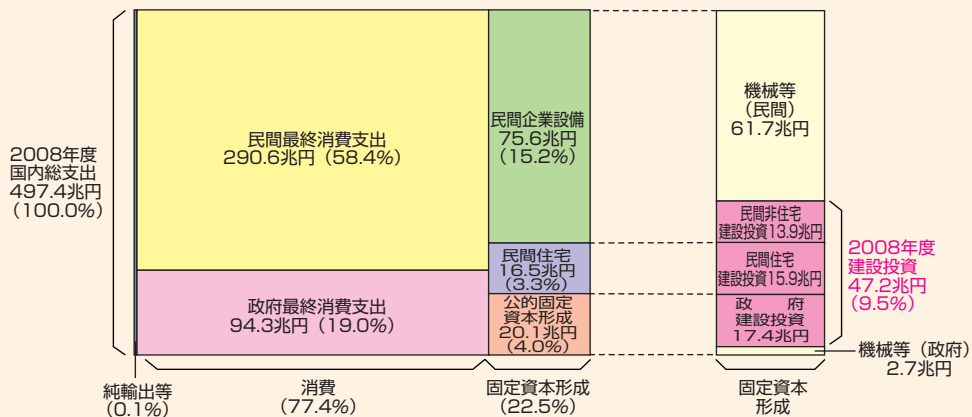


# 2 日本経済と建設業

## 国内総支出と建設投資



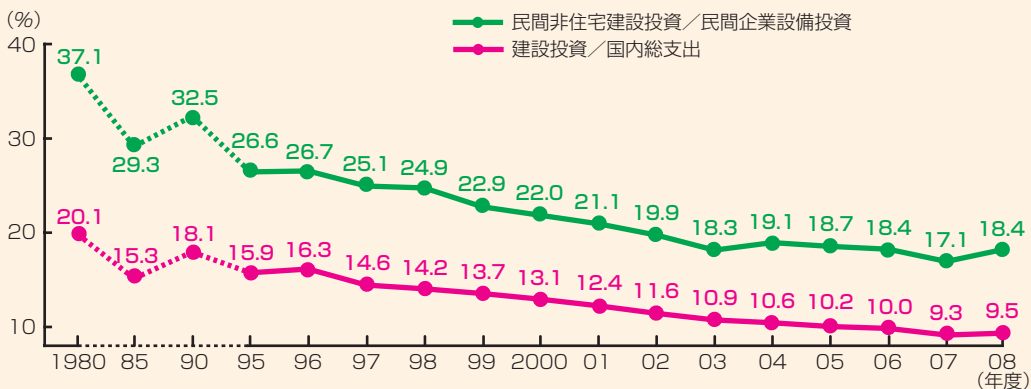
(注) 1. ( ) 内は国内総支出中に占める割合を示す。

2. 建設投資中の「民間住宅」は国内総支出中の「民間住宅」と概念上は同一であるが、推計の機関が異なるため数値に若干の相違がある。

資料出所：内閣府、国土交通省

わが国の国内総支出 (GDP) のうち、約3/4は消費支出であり、残りの大部分は固定資本形成 (投資) である。固定資本形成は機械部分と建設部分とから成っており、この建設部分が建設投資に相当する。2008年度建設投資の国内総支出全体に占める割合は9.5%である。

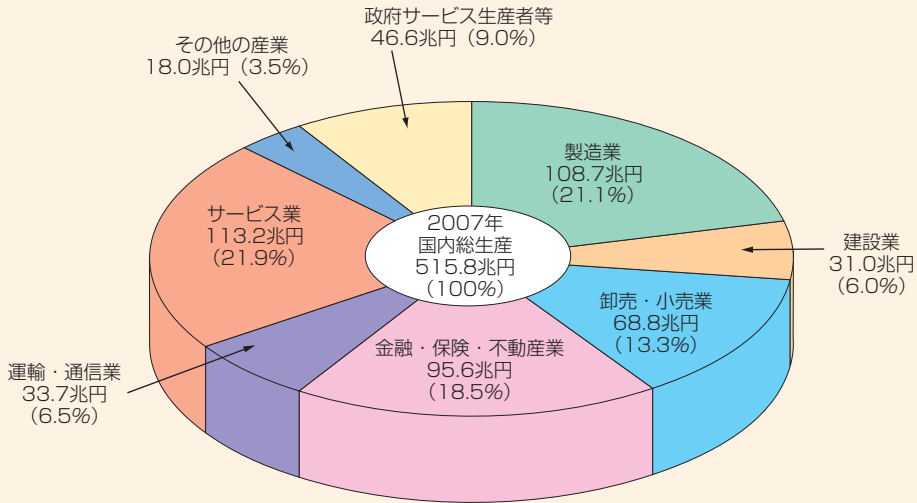
## 建設投資比率の推移



資料出所：内閣府、国土交通省

国内総支出に占める建設投資の割合は低下傾向にあったが、08年度は小幅ではあるが上昇に転じた。これは、07年度に改正建築基準法施行の影響で建築投資が急減し建設投資比率の低下が比較的大幅となったことからの反動によるものである。民間設備投資に占める非住宅建設投資の割合が08年度に上昇していることも同じ理由による。

## 産業別生産額（粗付加価値額）

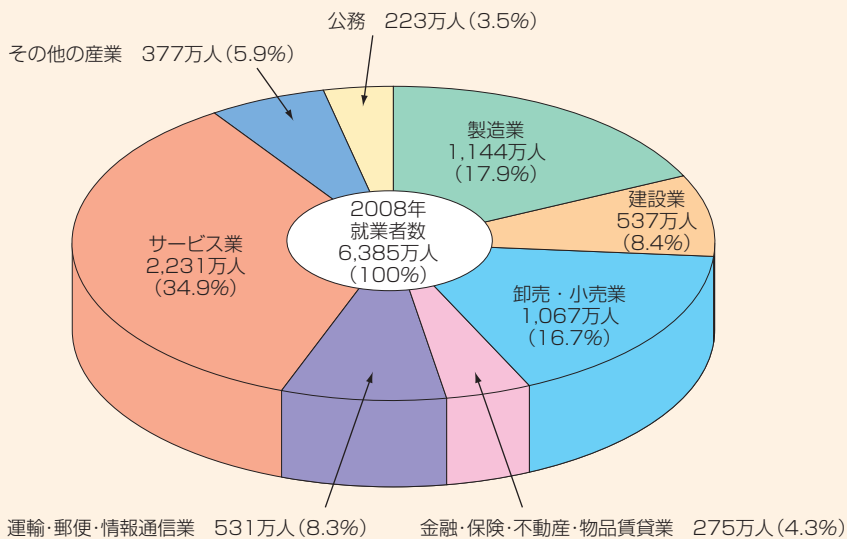


資料出所：内閣府

国民経済計算ベースでは、建設業の産出額（2007年70.7兆円。維持補修も含む）のうち、半分強が建設資材等の中間投入部分であり、建設業が新たに生み出した価値（生産額）は半分弱（2007年31.0兆円、粗付加価値率43.8%）である。

2007年の建設業の生産額は国全体の生産額（国内総生産）の6.0%を占める。

## 産業別就業者数



資料出所：総務省

建設業就業者数の全体に占める割合は近年低下傾向にあり、2008年における割合は8.4%である。